

# もくじ

1 ヘビ、ブランコと<sup>あ</sup>会う — 7

5 ヘビ、あやうし — 49

2 ヘビ、ブランコにまきつく — 15

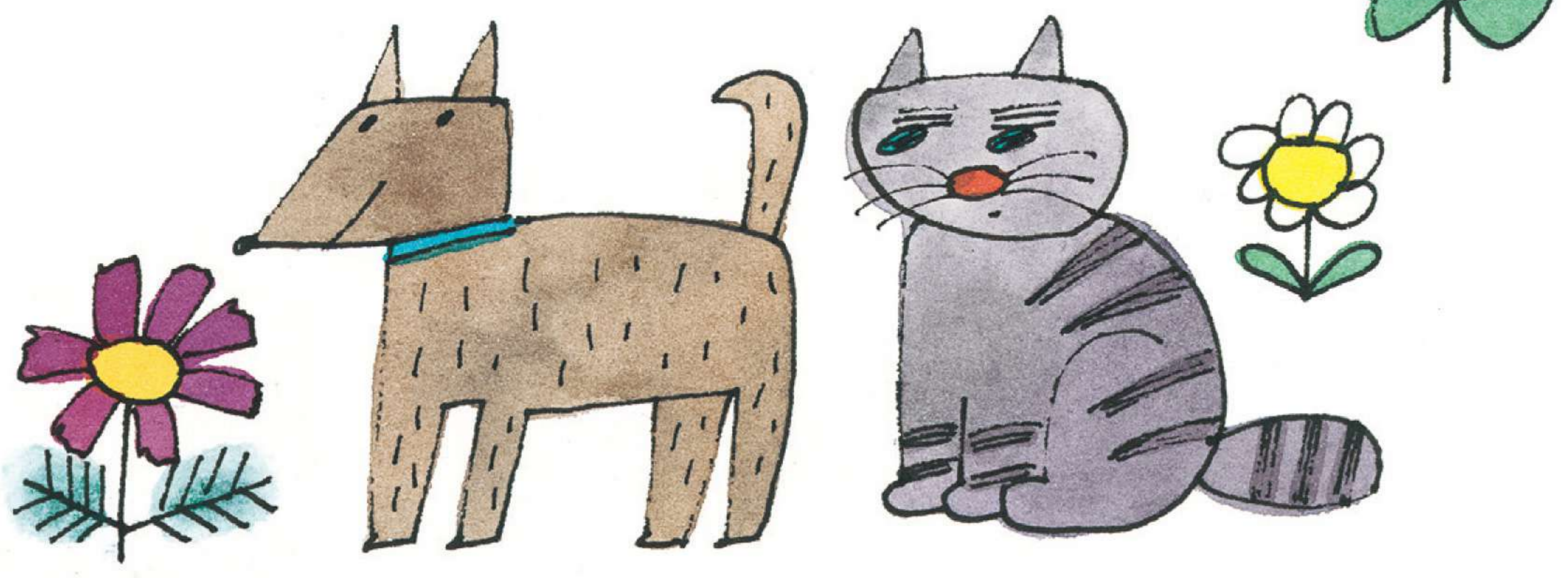
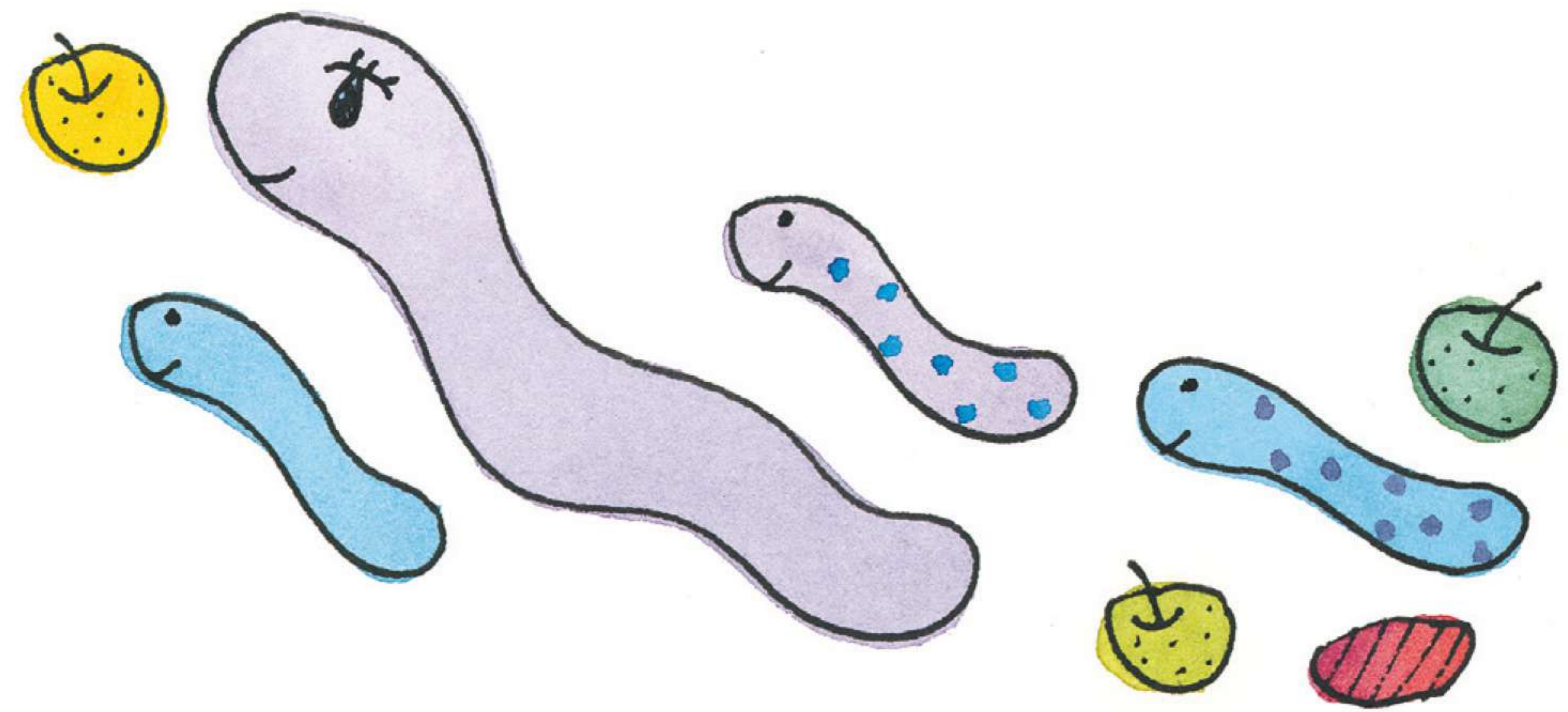
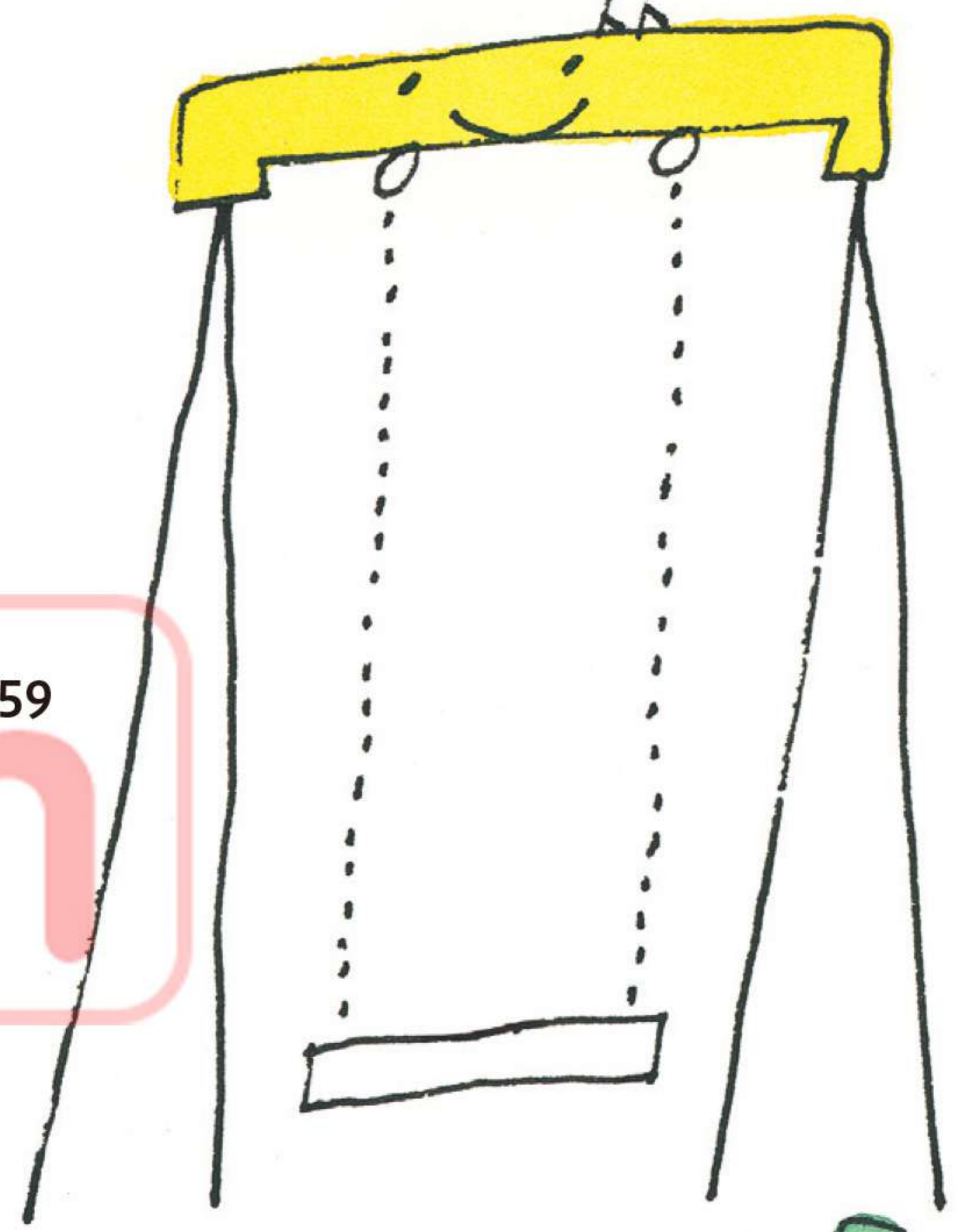
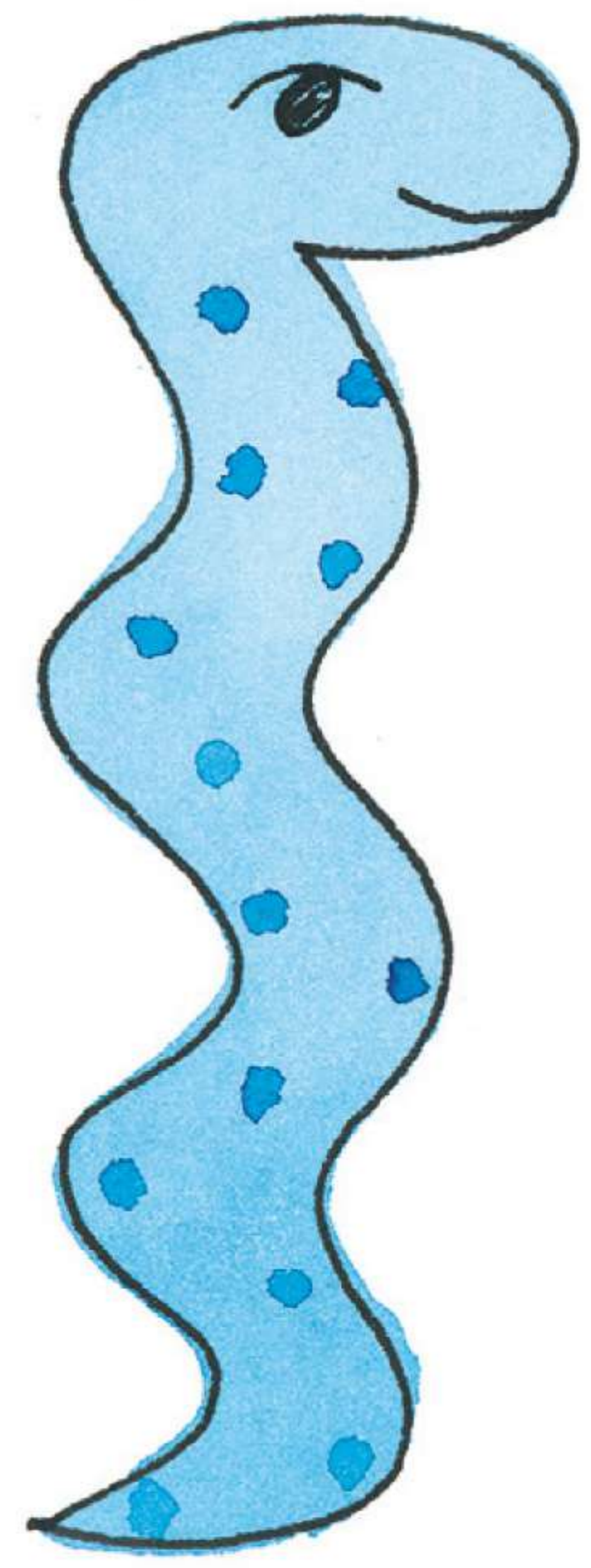
6 ヘビ、<sup>かぞく</sup>家族ができる — 59

3 ヘビ、とぶ — 31

7 ヘビ、<sup>のほら</sup>野原へ — 65

4 ヘビ、<sup>たび</sup>旅をする — 43

AliceKan

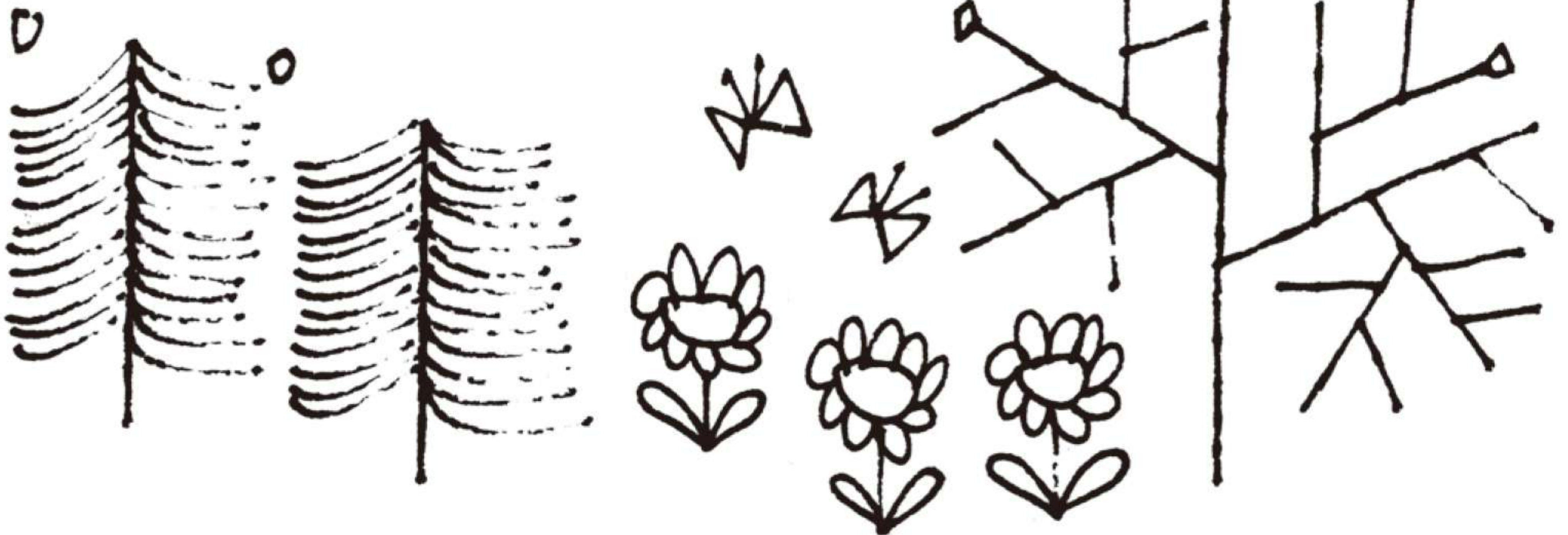


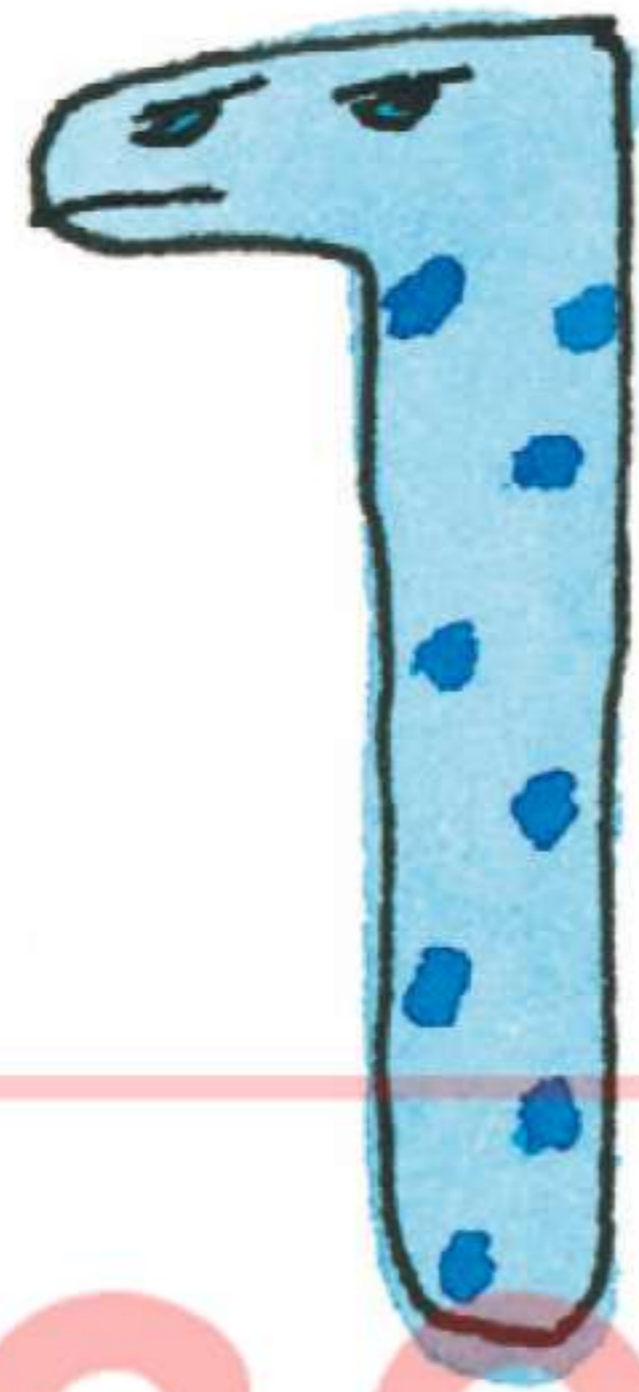


なが ふゆ  
長い冬のあいだ、  
じめん しろ ゆき  
地面はまっ白な雪で  
おおわれていました。

ある<sup>あさ</sup>朝、お日<sup>ひ</sup>さまが顔<sup>かお</sup>をのぞかせると、  
その<sup>ゆき</sup>雪が、じわりと<sup>すこ</sup>少し、とけました。

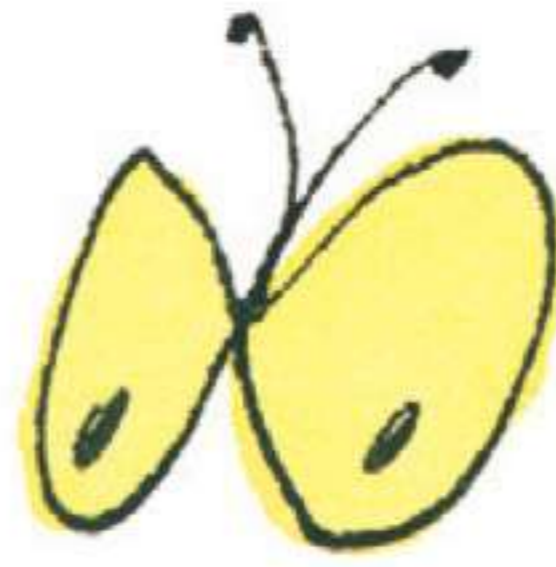
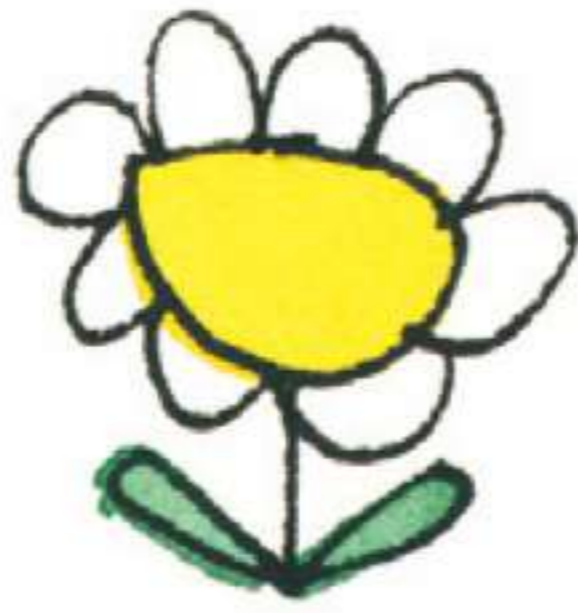
<sup>ゆき</sup>雪は、じわりじわりと、とけつづけ、  
いつしか、すっかりきえていました。  
<sup>はる</sup>春がきたのです。





# Alice<sup>あ</sup>cekan

ヘビ、ブランコと会う



つち  
土になりかけたナラやクヌギのおち葉が、  
ぐぐぐっと、もりあがりました。

いっ  
一匹きのへびが、  
かお  
顔をのぞかせました。

へびは、ふゆのあいだ、つちなか  
土の中でねむっていたのです。

ふわあ～。

ねぼけまなこで、ちい  
小さなあくびをひとつ。

「イテテ！」

あたま まつば  
頭に松葉がささり、いっきにねむけがふっとびました。

Alicekani



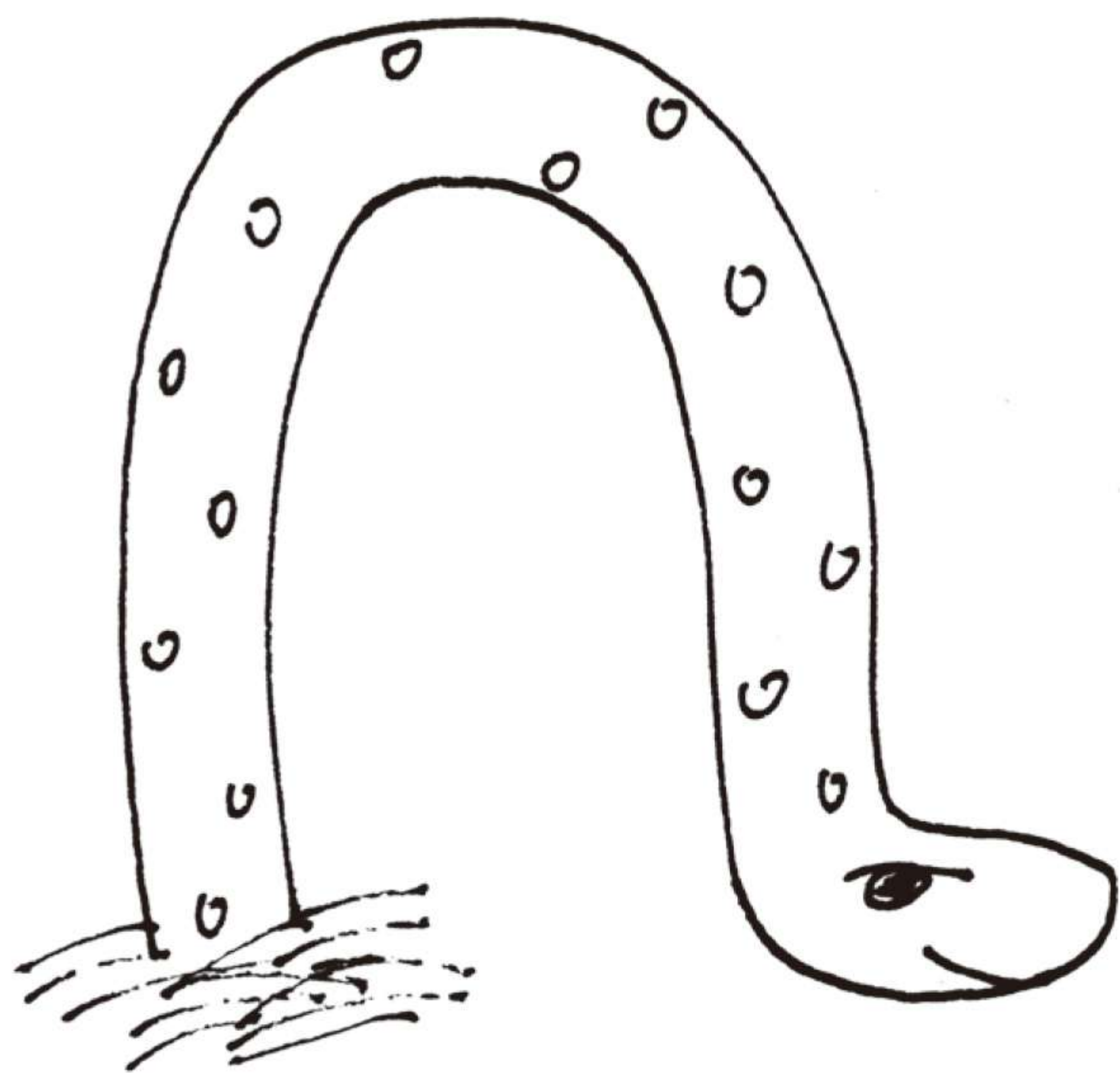
へびは、あたりを<sup>み</sup>まわしました。

そこは、<sup>ちい</sup>小さな<sup>はな</sup>花がさく<sup>の</sup>野原。

おくに、ブランコが  
ぽつんとひとつありました。

Alice kan

ずるり。  
ヘビは、  
つち うえ  
土の上にてて  
からだ  
ぐーっと体を  
のばします。



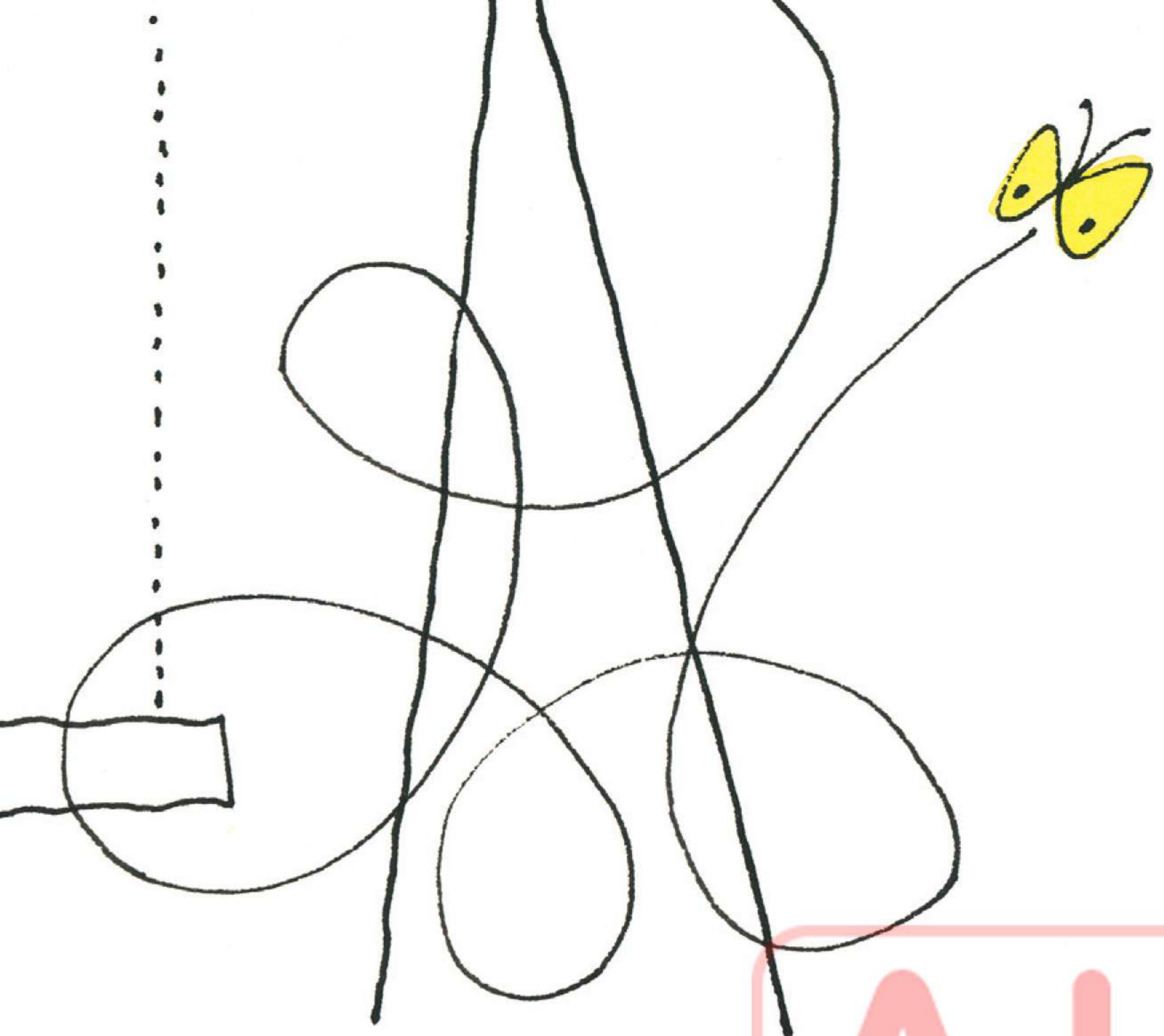
「どうだ？ <sup>なが</sup>長いだらう。すごいだらう」  
そんなじまんをしましたが、だれもきいていません。

「まあっ」  
チョウは、ヘビの<sup>あたま</sup>頭の上を、  
ゆうらゆら。  
ブランコのほうへ、  
とんでいきます。  
つられてヘビも、ゆうらゆら。  
ブランコのほうへ、むかいます。  
ゆうらゆら、ふうらふら。  
ゆうらゆら、ふうらふら……。

ブランコの<sup>いた</sup>板へ。  
<sup>いた</sup>板からくさりのまわりへ。

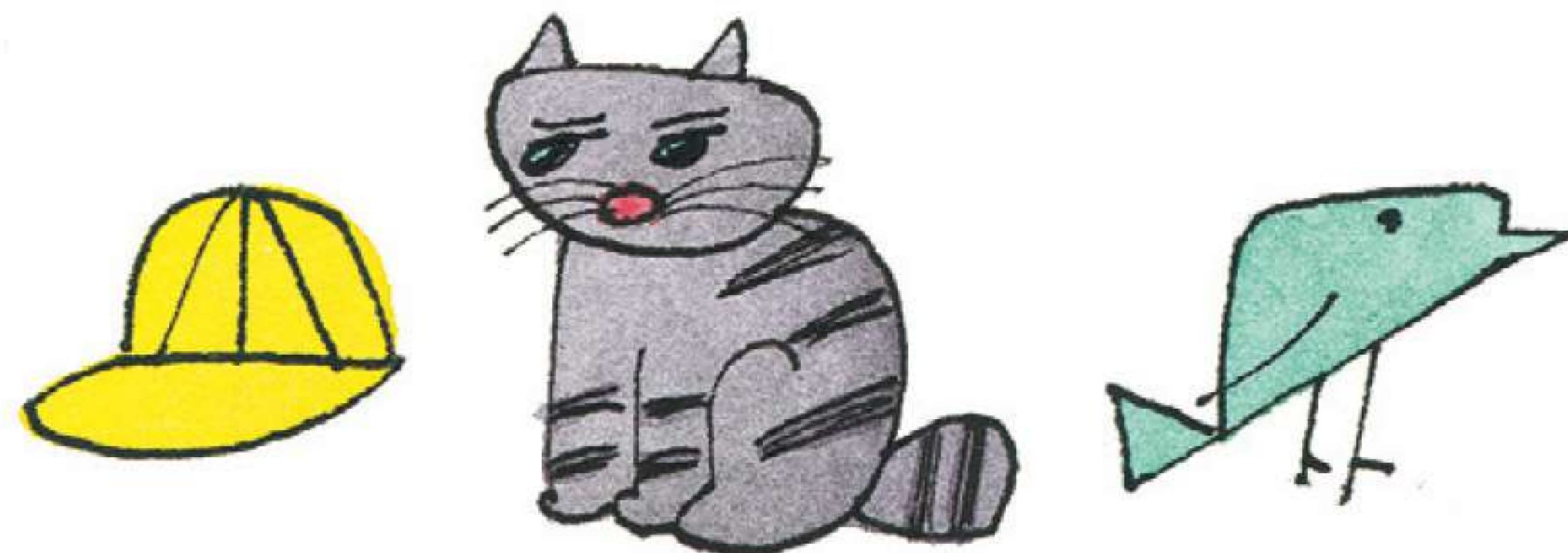
ゆうらゆら、ふうらふら……  
ぐるぐる、ぐうるぐる……  
ゆうらゆら、ふうらふら……  
ぐるぐる、ぐうるぐる……

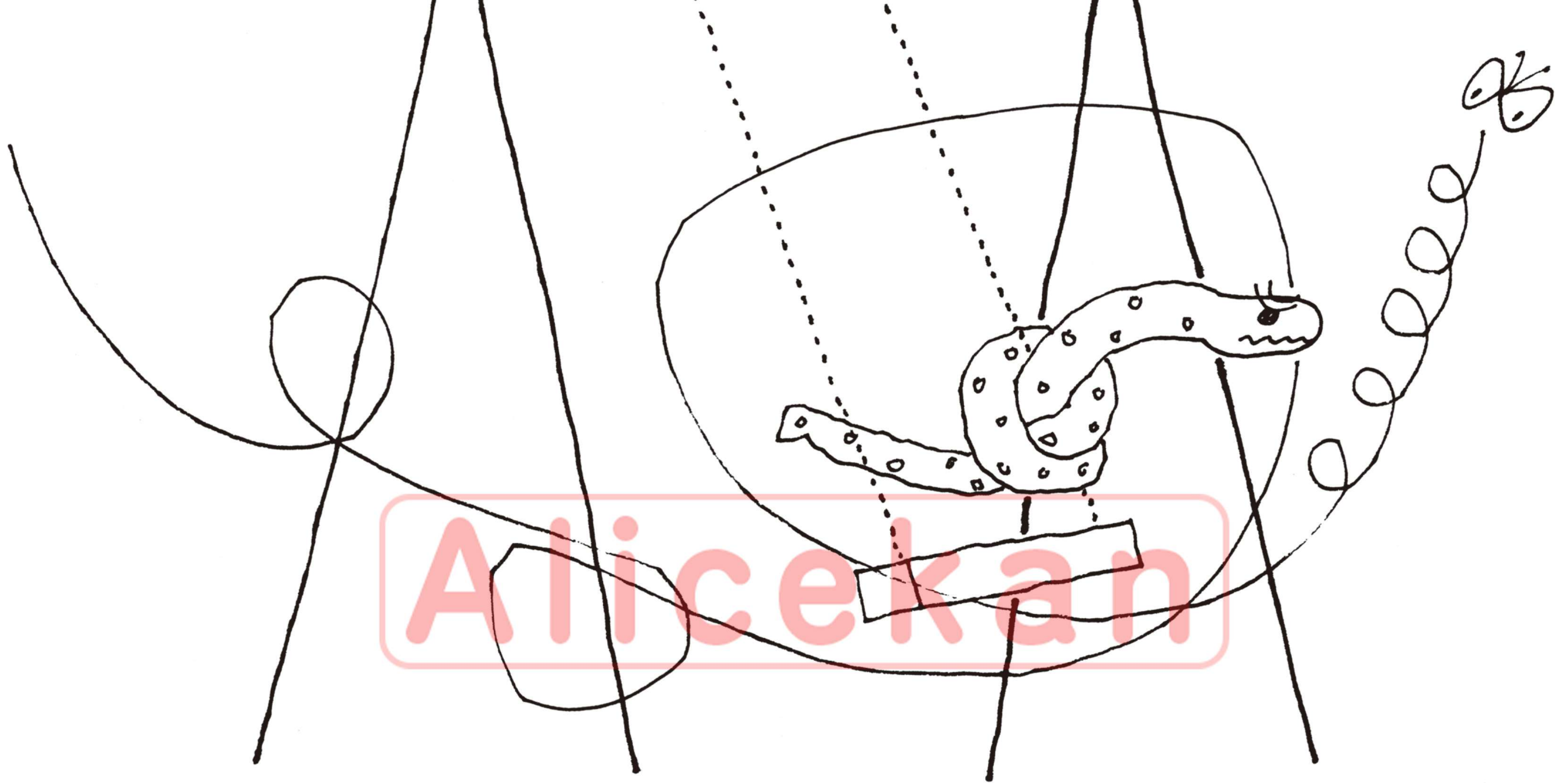
<sup>きいろ</sup>黄色いチョウがとんできて、いいました。  
「のびたりちぢんだり、おかしい<sup>い</sup>もの<sup>もの</sup>生き物ね」  
ヘビは、<sup>からだ</sup>体をのばしてみせました。  
「おれは、ヘビだ。まっすぐになると、ほら、こんなに<sup>なが</sup>長い」



Alice kam

へび、ブランコにまきつく





あれれ?!

きゅうに、みうごきがとれなくなりました。

へビは、自分で自分を、ブランコのくさりに  
むすびつけてしまったのです。

「あ、あたしのせいじゃないわよ」

チョウはそういと、とんでいってしまいました。

「おい、までよ。おい……」

うーん、うーん。

へビは、どうにかうごけないかと、

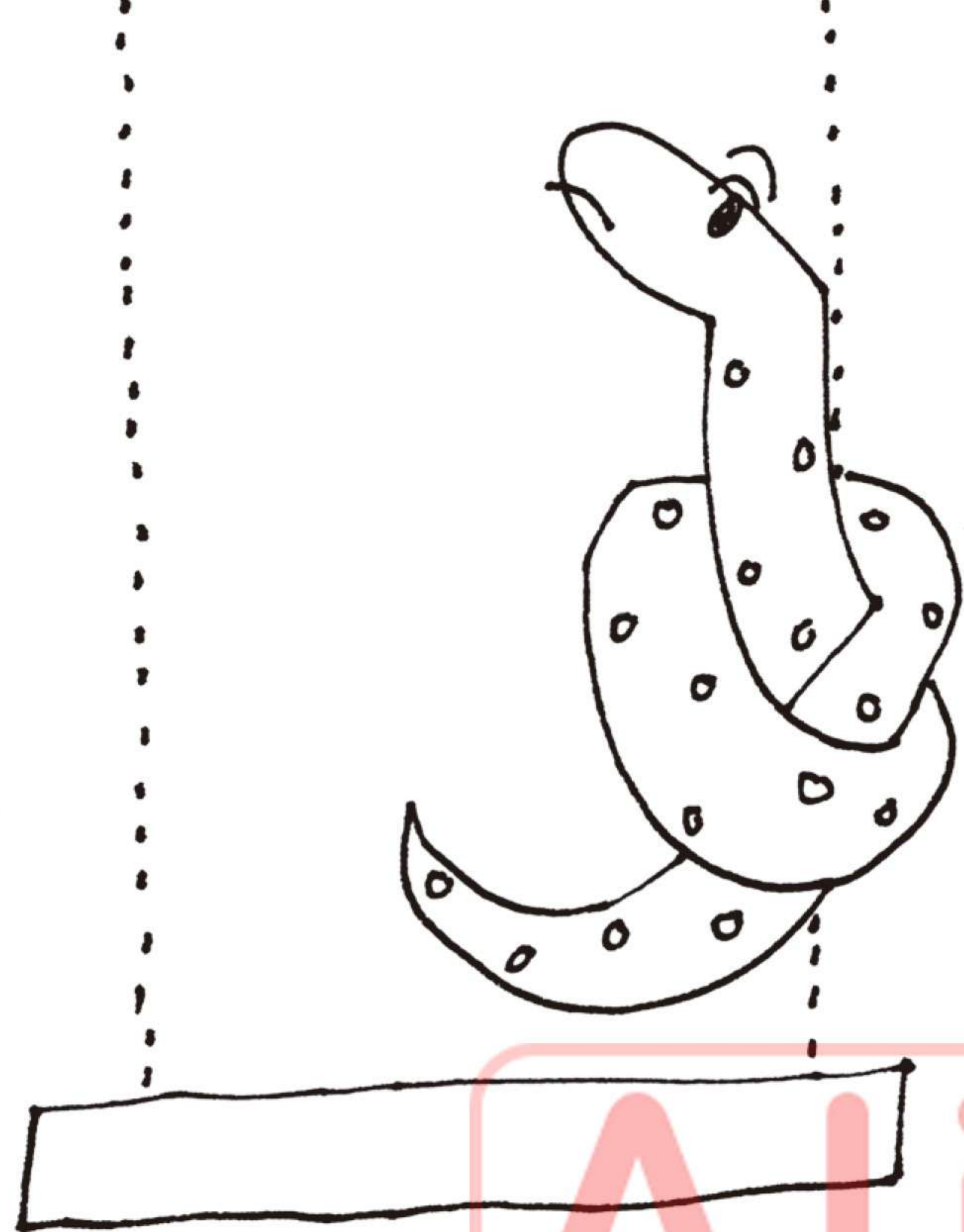
頭の先からしっぽまで力をこめました。

でも、力をいれればいれるほど、くるしくなってきます。

そのとき、どこからか声がしました。

「へビくん、へビくん」





ヘビは、「ふん」と、しっぽの先<sup>さき</sup>をうごかしました。  
すると、しっぽは、ブランコの板<sup>いた</sup>をくすぐりました。  
ヘビはそのつもりではなかったのですがね。

「ふふ」  
ブランコがほんの少し<sup>すこ</sup>わらって、ほんの少し<sup>すこ</sup>、ゆれました。

AliceKan

「力をぬいてごらん」

また声<sup>こえ</sup>がします。

「だ……だれだ？」

「ぼくだよ」

「ぼくだって？」

「ほら。きみがのっているブランコだよ」

「ブランコ？」

たしかに声<sup>こえ</sup>は、ヘビがまきついている

ブランコから聞こえます。

「ブランコでもだれでもいい。おれをほどいてくれ」

「そうしてあげたいけど、ぼくは自分<sup>じぶん</sup>ではうごけないから……」

ブランコは、もうしわけなさそうにいました。

